日刊木材新聞
発行所 日刊木材新聞社
〒135-0041 東京都江東区冬木23-4
編集・営業 ☎03・3820・3500
FAX03・3820・3519
総務・販売 ☎03・3820・3511
FAX03・3820・3518
https://jfpj.jp/
eメール info@n-mokuzai.com
購読料 1ヵ月 6,200円
©日刊木材新聞社 2023
本紙の無断複製(コピー・PDF)配布は、著作権の侵害にあたり違法です。

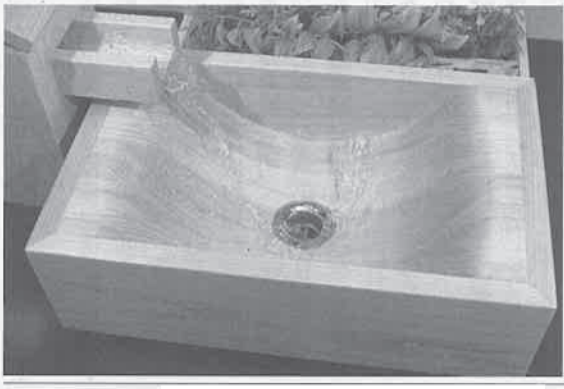
# 木材の液体ガラス処理加工本格化

## 愛和ライト

## 耐水、耐候、防蟻・防腐性能持たせる

愛和ライト（愛知県春日井市、岩田潤社長）は、木材の液体ガラス処理加工を本格化している。ナノ化したガラス成分シリカに酵素などを加えた、常温でガラスの特性を持つ液体を自社の守山工場（名古屋市）で木材に含浸、塗装することで耐水性、耐候性、防蟻・防腐性能を持たせる。木の香りを残すことも可能で、これまでに水にさらされる料亭の洗面台（桧）や建具ほかで納入実績がある。

同社は1974年創業で、遊技台や自動車向けプラスチック部品の成形、製造などを手掛けている。4年前に、新規事業として木材事業部（名古屋市守山区）を立ち上げた。その後、あいち産業科学技術総合センターでの液体ガラス処理木材の色差や耐久性の試験（桧、杉）や試験データ収集を経て、既製品である透明タイプの処理剤の改良、加工プロセスの最適化、安定化にこぎつけ、加工受注を本格化した。


液体ガラス処理した桧の洗面台

木材が持つ水分と液体ガラスを置換することで、耐水性、耐候性、防腐・防蟻性能を持たせる。木材の調達、液体ガラス処理、社外連携による処理後の木材の製品加工までに対応しており、木材の持ち込みや丸太の処理（長さ7㍍×1・5㍍×1㍍角まで）も可能。ユーザーの使途やコストといった条件により、耐候性、防腐・防蟻性、使用箇所（屋外・屋内）、着色の可否、メンテナンス期間の長短などのスペックを選択できる。

最上位仕様は、木材を湯せんした後に液体ガラスを含浸させ、さらに表面部の造膜により性能を高めている。これまでの納入先では、ベンチに使用した場合で約20カ月、洗面台では処理後2年以上にわたる色や性能の維持を確認しているという。同社では海外製の膜厚計なども取り入れ、処理材の均質化につながる品質の維持・向上に努めている。

森岡一男木材事業部長は「他のガラス処理木材と比べて劣化性能に優れていることを確認しており、木材の活用が進むゼネコンが手掛ける物件などで引き合いが増加している。桧と杉以外では青森ヒバほかでも処理実績があるので、樹種についての問い合わせがあれば対応したい。将来は造膜なしで最上位仕様の性能確保を目指し、大量生産も視野に入れている」と話している。

主な記事

▽3面 大坂商況 戸建て分譲が回復
▽4面 九州版 小国町森林組合 電子入札導入から半年
▽5面 塚田電気工事 ビオトープ×ZEBオフィス
スピル竣工
▽6面 トーコー・金属屋根用棟換気 新構造導入
しフルリニューアル
▽7面 中部地区 国産材素材は並材が値下がり